いっぺいといっぷく

市長のまちづくりにかける想いを市長の語り口でお伝えします。
市HP「にょぜがもん」もぜひご覧ください。

Vol.76　そのとき、誰が入所者をみてくれるのか

全国のいくつかの介護施設、障がい者施設で、新型コロナウイルスの集団感染（クラスター）が報告されていることから、私は、4月中旬から下旬にかけて、市内のいくつかの介護、障がい者施設に現状を伺いました。

施設で暮らしている高齢者や障がい者の皆さんにとって、施設は自宅と同じです。そのため、発症した場合、軽症の間は、施設（＝自宅）で経過を見ながら過ごすことになります。そもそも人手不足の中、施設のスタッフが集団感染すれば、施設を閉鎖する事態にもなりかねません。

「そのとき、誰が入所者をみてくれるのか」

施設等で働く皆さんは、そんな不安を抱えながら、施設内にウイルスを持ち込まないために、マスクや消毒液が不足する中、人一倍、気をつかって日常生活を送るなど、気の休まることのない毎日を過ごしていました。

介護等の仕事を辞めざるを得ない人も増えているそうです。理由は、保育園や学校が休園・休校になり、ご自身のお子さんの面倒をみるためや、感染のリスクが怖いなど、さまざまです。残った人達で目の前の高齢者、障がい者を「何とか支えよう」という使命感と覚悟で、ギリギリのところで踏ん張って働いてくださっているとお聞きし、涙が出そうです。

ある経営者は、「辞めざるを得ない人の気持ちも、痛いほど分かるので、その人たちを責めることはできません。でも、現実に職員が足りません。このまま仕事が続けられるのか不安を感じている職員も多くいます。使命感で頑張ってくれる人、不安で押しつぶされそうな人、それぞれの思いがぶつかりあって、職場が分断してしまいそうです」と、心を痛めてみえました。

テレビをつければ暗いニュースばかりで、疑心暗鬼になり、互いに責め合ったり、偏見や差別が起きたりしています。責める相手は、新型コロナウイルスであって、「人」ではありません。

新型コロナウイルス感染症の最前線で働いている医師、看護師など医療従事者、介護、保育に携わる皆さんをはじめ、基本的な生活を送る上で必要な公共交通、物流、店舗、窓口業務などの仕事に携わる皆さんがいるおかげで、私たちは、今も、日々の暮らしを続けることができています。本当にありがとうございます。

もし、生活を支えてくださっている皆さんに困ったことがあれば、それを助けるのが、行政の役目です。そして、市民一人ひとりの自覚ある行動が、そうした方々の負担を少しでも減らすことにつながります。

引き続きの感染予防にご協力をお願いします。

長久手市地域見守り安心ほっとライン　0561-63-5556　24時間365日受付

ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

この広報紙の無断転載を禁じます。視覚障がい者のみなさんにも家族から読んであげてください。

VEGETABLE OIL INK　この広報紙は、植物油インキを使用しています。
GREEN PRINTING JFPI P-K10003　この印刷製品は、環境に配慮した資材と工場で製造されています。

発行／愛知県長久手市　編集／市長公室情報課　TEL／(0561) 63-1111　FAX／(0561) 63-2100　〒480-1196 愛知県長久手市岩作城の内60番地1　ホームページ　http://www.city.nagakute.lg.jp